

平成30年度 はばたき学習（総合的な学習の時間）実践・研究計画

部 員	○熊谷 尚, 村上 宙思, 松橋 純子, 保坂 智子, 石田 智之
-----	-----------------------------------

研究テーマ

人，自然，社会とかかわり，対象の本質を追究していく子どもを育む学び

1 研究テーマについて

総合的な学習の時間は、探究的な「見方・考え方」を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することをねらいとしている。総合的な学習の時間における「見方・考え方」は、各教科における「見方・考え方」を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰的にとらえ、実社会や実生活の文脈や自己の生き方と関連付けて問い続けることと考える。また、それは探究的な学習に主体的・協働的に取り組む中で、自分たちなりの新たな知見や結論を見いだしていくことであるとも言える。対象となる物事の本質を探って見極めようとする探究的な学習にこそ、総合的な学習の時間の特質がある。こうした特質を踏まえ、総合的な学習の時間では、研究主題の「自律した学習者」を、探究的な学習の中で対象に働きかけることを通して、よりよく課題を解決し、他者や自然、社会と協働、共生することの意味や価値を自分なりに見いだしている子どもととらえた。そして、研究副題における「学びをつなぐ」を、次の3つのことととらえた。一つ目は、体験的な活動や生活経験の中から課題を見いだし、これまでの学びと自分の学びをつなぐこと、二つ目は、収集した情報について「対話」を通して質の高い考えを生み出したり、全体を俯瞰した概念としてとらえたりして仲間との学びと自分の学びをつなぐこと、三つ目は、探究的な学びをする中で自分の学びを省察し、もっと調べなければならないことや疑問に思ったことをさらに追究し、これからの学びと自分の学びをつなぐことである。また、「資質・能力」を、探究的な学習を行うこと、その中で課題解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題についての概念を形成し、探究的な学習そのもののよさを理解すること、そして、学習に主体的・協働的に取り組むとともに積極的に社会参画しようとすることととらえた。

実践にあたっては、自分なりの考えをもつことを大切にするとともに、「仲間との対話」を通して互いの考えを深化・発展させていくことを目指す。研究テーマの「対象の本質を追究していく子ども」とは、それまでの生活経験や体験活動を手がかりにしながら、学習対象となる「ひと・もの・こと」について調べ、考えたことを自分なりに意味付けたり価値づけたりしていく子どもである。はばたき学習（総合的な学習の時間）における「学びをつなぎ、資質・能力を高めていく子どもの姿」を次のようにとらえる。

- ・ 対象へのアプローチ、共通体験や情報交換から課題を明確にし、追究していく道筋を自分でつくり上げていく姿
- ・ 比較や分類、関連付け等、情報を整理・分析をする活動を通して、対象についての考えを広げたり深めたりしていく姿
- ・ 仲間や地域の方々とかかわりながら追究する中で、考え方や生き方に共感したり、自分なりに対象に対する意味付けや価値付けをしたりする姿

前研究主題における実践・研究では、探求的な学習過程に「対話」を取り入れることにより、問題をよりよく解決する力を育んできた。その中で、対象について課題をもったり考えを深めたりしていくためには、それまでの生活経験を生かしたり体験活動を意図的に組み入れたりして単元を構成することが有効であることが確かめられた。今後は、今、何がどこまでできているのか、これから何をどうしていかなければならないのかなど、子ども自身が自己の課題を明らかにし、見通しをもって学習を進め、より主体的に課題解決を図っていくことができるような単元構成の在り方を検討していきたい。

また、「仲間との対話」による思考の深まりは見られたものの、子ども一人一人の考えの深まり方には大きな個人差が見られた。KJ法、マトリックス表、レーダーチャートなどといった「思考ツール」を効果的に用いた実践が多く見られたが、ツールを用いさえすれば思考が活発になるというわけではない。子ども自らが考え判断することが大切だが、その前段階として、何をどのように考えることが対象についての考えを深め、ねらいに迫ることにつながるのか、より適切な学び方を子ども自身が見いだしたり選択したりしていくことが大切であると考え。

そこで、探求的な学習の過程を螺旋反復的に繰り返しながら展開する単元構成の工夫と、「見方・考え方」を働かせて思考する活動を質的に高めるための手立ての工夫を重点とし、今年度の実践・研究を進めていく。

2 研究の重点

(1) 螺旋反復的な流れで展開する探究的な学習の過程を大切にしたい単元構成の工夫

「課題の設定」→「情報の収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」といった一連の探求的な学習過程を柔軟に設定し、過程の順序を入れ替えたり、一体化したり、重点的に行ったりするなど、螺旋反復的な流れを重視し、単元を構成する。多様な角度から俯瞰して考えることにより、対象に対する考えを広げたり深めたりすることができる。自分の課題を解決するために、子どもたち自身が必要な活動を選択しながら試行錯誤を繰り返す活動を設定する。また、見通したことを確かめたり、自らの学びを意味付けたりするなどふり返りを重視し、必要に応じて探究的な学習過程の一体化や重点化を図る。

(2) 「見方・考え方」を働かせて思考する活動の質的な高まりを促す手立ての工夫

子どもたちが収集する情報は、感覚的な情報や言語化された情報、数値化された情報など多様である。その収集した個別の情報を整理・分析して思考する過程を重視することにより、対象に対する認識を更新することができる。そのために、各教科等で培った「見方・考え方」を効果的に使い、対象についての考えを広げ深めることにつなげる。比較して考える・分類して考える・序列化して考える・関連付けて考えるなど、様々な思考方法を子ども自身が自覚的に用いながら学んでいけるようにするための、すなわち「自律した学習者」としての子どもを育てるための教師の支援の在り方と、その具体的な手立てを探っていく。

3 研究・研修計画

時 期	主な研究・研修行事	研究・研修内容
1 学期	・部会 ・附属小学校公開研究協議会(6/8) 提案授業(保坂：5C)	・実践・研究計画、年間指導計画作成
2 学期	・部会 ・部内研修会 提案授業(村上：3C)	・実践・研究についての情報交換 ・授業を通しての重点事項の検証
3 学期	・部会	・授業を通しての研究の方向性の確認 ・実践記録・研究計画案の作成

通年：年間指導計画及び総合で身に付けたい「資質・能力」の加除・修正
キャリア教育にかかわる対象や活動についての記録

〈参考文献〉

文部科学省2017年『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』
文部科学省2010年『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』
文部科学省初等中等教育局教育課程課2017年「総合的な学習の時間において育成を目指す資質・能力」文部科学省『初等教育資料』2017年1月号No.948 P.22～31